

- 21世紀 心の時代に
得意を伸ばせば可能性が広がります
リト@葉っぱ切り絵…………… 1
- 道徳授業 私の実践
・子どもたちが自分なりの答えを見つけれられる
授業を目指して
宮本真行…………… 4
- ・「一粒で二度おいしい」
学級集団の道徳性を高める授業展開
水流卓哉…………… 6
- SDGs×道徳 …………… 8
- どうなるこれからの道徳授業…………… 10

道徳 ジャーナル

21世紀
心の時代に

得意を伸ばせば可能性が
広がります

就職して気付いた自分の特性

多くの人に作品が知られるようになって、「子どものころから特別な才能を感じていたのですか?」と聞かれますが、僕はまったく平凡な子どもでした。親からよく言われていたのは「忘れ物が多い」「置きっぱなし」「つけっぱなし」という注意ばかり。一方、弟は器用にこなせるタイプだったので、彼を見ると「どうして僕はできないのだろうか」とよく感じていました。

幼いころは漫画を描くのが好きだったので、「将来は漫画家」と思ったこともありましたが、世の中に絵がうまい人がたくさんいることを知ると一気に冷めてしまい、「普通に就職して会社で働いて……」と現実的に考えるようになって

ていました。

大学を卒業して飲食店に就職すると、これまで思いもなかった困難を経験しました。仕事があまくこなせないのです。失敗が多く、段取りも悪い。想定外のこと起きると緊張して余裕がなくなり、気が付けば「今日は何で怒られるのだろうか……」と心配しながら出勤する毎日でした。

それでも、その会社には七年間勤めました。辞めずに続けたのは、転職した先でそれがうまくできるかという不安のほうが強かったからです。そのような中、部署の異動が決まり、新しい会社に入ったような状況になったのがきっかけで会社を辞めることにしました。その後、自分に合う仕事を探して転職をしたのですが、やはりうまくいきません。仕事ができないのには何か原因があり、対策方法があるに違いない



葉っぱ切り絵アーティスト

リト@葉っぱ切り絵

と、インターネットで調べると、僕と同じようなことで悩んでいる人がたくさんいることを知りました。そこで、『発達障害（ADHD）』という言葉に出合ったのです。病院で診断されたときはショックよりも「理由があった」という安堵感のほうが強かったです。

「発達障害」の診断に重い荷が下りた

自分の特性を知った上で今後のことを考えると、「サラリーマンはない」と思いました。社会人として身につけなくてはならないスキルの



『いつでも君のそばにいる』『いつでも君のそばにいる』（講談社）より

中に、僕が持ち合わせていないものがたくさんあるからです。それなら何か新しいやり方で自分の居場所を見つけようと思い、SNSで発達障害をテーマに自分が経験した困りごとを発信することにしました。自分をオープンにした上で「うちの会社にこない？」と関心を持つてくれる人に出会えるかもしれない、と。

自分の障害について発信するようになるとフォローが一気に増えました。毎日発信していると、だんだんネタが尽きてきます。ネタを集める中で、自治体から紹介された若者就労支援の施設を知りました。情報集めとして、ここで開かれたパソコンスキルの講座を受講したのですが、すでに知っている内容で退屈だったので、紙の切れ端に細かな絵を落書きして時間をつぶしました。これを改めて見るとなかなか面白く、紙にびっしりとこの絵を描いているんなら塗れば、「ADHDの過集中をうまく使えばこんな絵も描ける」ことを伝えられると思いました。早速、講座の帰りに色鉛筆とノートを買って絵を描き始めました。絵は一週間ほどで完成し、発信してみると思いのほか反響があったので、ほかの作品も発信することにしました。

SNSで絵の発信を増やしていくと、次第にフォローが減ってきていることに気付きました



89作品とそれぞれのストーリーが掲載された初作品集。『いつでも君のそばにいる』リト@葉っぱ切り絵（講談社）
定価：1430円
（本体1300円+税）
ISBN 978-4-06-523370-2

た。どうやら僕がこれまで発信していた発達障害に関する情報が知りたい人にとって、僕の仕事は要らなかつたようなのです。その後の方向性に悩みながらも、絵に魅力を感じていたので、いろいろな表現方法を探していました。

ある日、たまたま電車の中でSNSをチェックしていると、すてきな切り絵の作品が目に残りました。同じような作品は作れないけれど、細かなカッティング作業は得意かもしれないと思い、帰宅途中に画材屋でカッティングセットを購入し、その日の夜から切り絵を始めました。早速、作品の写真をSNSで出しましたが、すでに切り絵は世の中にたくさん出ているので、あまりよい反応が得られません。「紙ではない何か別なものを使ったほうがいい」と探していると、たまたま海外の作家の葉っぱ切り絵を見つけ、「これなら僕にもできるかも」と思いました。それが、僕と葉っぱ切り絵の出合い

です。

葉っぱ切り絵は紙と違って凹凸や葉脈があるのでカットが難しく、初めのころは時間がかかりましたが、自分には合っていました。毎日一枚、SNSに作品を出し続け、八か月程たったある日突然、フォロワーが何千人も増えたのです。いわゆる「バズる」という現象です。

一つの作品を切り始めて完成するまで二時間から長いと八時間くらいかかることも。ほんの〇・〇一ミリの微差が気になって、いつまでも直してしまうこともあります。ADHDの特性である過集中が生かしているようです。作品は、事前に練って考えるというより、ふと思いついたことや、なんとなく目に入ったものからパッと浮かんだ世界を表現しています。そして、作品を見て思い浮かんだ言葉を付けています。

得意な部分が伸ばせる世の中に

多くの人たちは、自分の足りない部分をどうにか平均に近づけることに必死です。学校でいえば、教科によって成績の差が大きくある場合、成績がよい教科に對して「さらに伸ばそう」と考えるより、悪い教科をどうにかして上げようと



「温かいお家に帰ろう」「離れていても伝えたい」(講談社)より

します。得意なほうをさらに伸ばせば、本人が自分の可能性をより確信できますし、自信を持つことができます。ところが、苦手なことばかりに焦点を当てると、劣等感ばかりが募り、もともと得意だったものさえも見失ってしまうかもしれません。しかも、苦手なことはどんなに頑張ってもそれほど大きな結果を出すことが難しいと感じることもあるかもしれません。障害の有無に関係なく、得意、不得意は誰にでもあるものです。学校も社会も、できないこ



眺めて飾って送って楽しめるメッセージカードブック。『離れていても伝えたい』リト@葉っぱ切り絵 (講談社) 定価：1760円 (本体1600円+税) ISBN 978-4-06-526397-6

とに努力をさせようとする傾向がありますが、その努力にかけるエネルギーは相当なものであることを理解してほしいと思います。苦手なこと、嫌いなことにエネルギーを使い果たして、本来のよい点を伸ばすチャンスを失うかもしれないのです。

僕は、葉っぱ切り絵に出合って「人生、こんなに大きく変わることがあるんだ」という経験をしました。できないことにおびえて、欠点ばかりが気になっていた僕が、自信を持って作品を表現している……。僕は才能があるわけでも、特別な勉強をしたわけでもなく、場所を移しただけです。もともと持っていた特性を生かせる場に身を置くことで、自分の可能性が大きく広がりました。一人として同じ人がいないように、可能性もそれぞれ違います。誰もが長所や得意なことから可能性を広げられる世の中になってほしいと思います。

(取材・文／岡本侑子)

道徳授業私の実践

京都府京都市立御所南小学校
教諭
宮本 真行

子どもたちが自分なりの答えを

見つけられる授業を目指して

大切にしている心構え

子どもたちは、これまでの自己の生き方や経験を通して、道徳的価値に対する自分なりの感じ方や考え方をもっています。そのため、「空っぽの心に道徳的価値を押し込む授業」ではなく、「子どもたちが本来もっているものを引き出す授業」が大切だと考えています。一人一人、感じ方や考え方の異なる子どもたちが、一つの教材を通して語り合うところに、道徳科のおもしろさがあります。それゆえに、授業

のねらいとなる道徳的価値に対する共通理解だけでなく、一人一人が自分なりの答え（納得解）を見つけられる授業を作っていくたいと考えました。

授業の実際

○**主題名** 自分に正直に
○**内容項目** 正直、誠実
○**教材名** 「まどガラスと魚」〔新・みんなのどうとく 3〕学研〕
○**ねらい** 光一が本当のことを言おうと決心した思いについて考えることを通して、正直であることの大切さに気

付き、正直に明るい心で生活しようとする心情を育てる。

正直であるとは「弱い心に負けず、自分の本当の気持ちに正直であること」と捉えました。その上で正直であることの大切さについて、子どもたちが自分で納得できる答えを見つけれられるように授業を行いました。

【導入】

子どもたちが納得解を見つけるためには、質の高い問いをもたせることが欠かせません。そこで事前に「正直でいることは大切だと思いますか？」と問いかけ、それに対する自分の考えを

もたせておいたのです。ここでは、GIGA端末の考えを共有する機能を活用しました。色付きのカードを提出することができるので、自分の考えを色で表現させました。

- ・大切だと思う↓ピンク
- ・大切だと思わない↓ブルー

本時の導入は、この色付きのカード一覧を大型テレビに提示することから始めました。当然ながらカードはピンク一色です。そこで、

「正直でいることはやっぱり大切ですよね。でも正直でいられず、うそやごまかしをしてしまったことはありませんか。」

と問いました。そして、自分の考えをもう一度色付きのカードで表現させました。

- ・したことはない↓ピンク
- ・してしまったことがある↓ブルー

すると、今度はブルーのカードが画面を埋め尽くします。この変化に子どもたちからは「えー」という驚きの声も聞かれます。その声に込められた思いがそのまま本時の学習課題にすり替わりました。大切だけれど、なかなか実現できないときがあるのだということ

を全員で共有した上で、

「つそやごまかしはしてしまつのに、正直でいることはどうして大切なのだらう。」

とめあてを設定しました。質の高い「問い」は、子どもたちが自身の中にある認識のずれに気付くことから生まれると思っています。

次に今日の学習で深く考えたいことはどんなことを問いかけました。学習のめあてと共に見通しをもたせることも、自分なりの答えを見つけるためには大切なことだと思つたのです。

【展開】

場面絵を掲示しながら教材を読み聞かせた後、窓ガラスを割ってしまった後の光一の気持ちを考えました。ペーパーシートを用いて、学校の帰りに何度も遠回りをして、ガラスの割れた家を見に行ったことをおさえます。光一の心の中には謝りたい気持ちがあることを確かめ、

「このときの心の中は謝りたい気持ちと謝れない気持ち、どれくらいあるのかな。」

と問いかけます。GIGA端末を活用し、一人一人の考えを心の数直線で数

値として可視化しました。多くの子は

謝れない気持ちですが謝りたい気持ちを上回っているのですが、その逆の割合で表現する子も現れます。自然と「〇〇

さんの考えを聞いてみたいです。」と対話が生まれ、子どもたちは互いの言葉に耳を傾けていました。中には謝れない気持ちをわずか1%と表現する子もいます。「この1%の怖い気持ちが

謝ろうとする自分を止めてしまう。」「自分をコントロールできなくなる。」など人間理解の面から自分との関わりで語る姿が見られました。一人一人の感じ方・考え方が可視化されることにより、主体的・対話的な交流が実現できたように感じました。

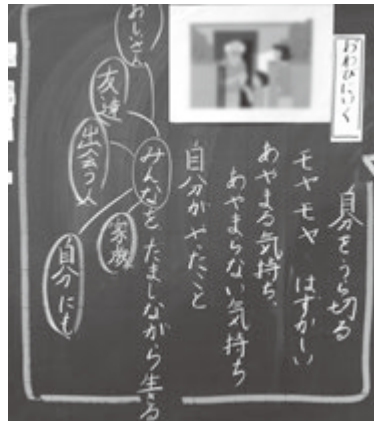
次に中心発問を通して、本時のねら

いに迫っていきます。迷っていた光一が、あじの干物を持って訪ねてきたお姉さんを見たとき、どんなことを考えたのかを確かめ、正直であることの大切さに気付いたことを共有しました。そして、

「あんなにも正直に言えなかつた光一が、本当のことを言おうと心に決めたのはどうしてだろう。」

と発問し、道徳ノートに自分の考えを

書く時間をとりました。全体での交流では「モヤモヤした気持ちをなくしたかったから。」「恥ずかしさに勝てたから。」「といった意見が出てきました。三年生ですら、こういった抽象的な表現が出てくることはよくあります。



そこで、モヤモヤや恥ずかしい気持ちの具体を明らかにするために問い返

していきました。すると「自分に対して情けない気持ちで……」「恥ずかしいことだと認めないことになるから

……。」「周りの人だけじゃなく自分を含めながら生きていくことになる……。」「といった発言が出てきて、自分の本當の気持ちに正直でありたいというねらいに迫ることができました。

【終末】

改めて、本時のめあてに立ち返ってグループで交流した後、学習を振り返りました。この振り返りの時間を十分に確保することが自分なりの答え（納得解）を見つけることにつながると考えています。

【子どもの振り返り】一部抜粋

今日の学習をして分かったことがありません。それはたった1%謝れない気持ちがあったら自分をコントロールすることが難しくなるということです。だからこの気持ちをコントロールすることが大切だと思います。それと正直に本當のことを言わないと、みんなや自分をだまして生きていけないので嫌です。だから、これからは本當のことを言い、自分を責めずに生きていきたいと思いました。

実践を終えて

道徳科の授業を、子どもたちがワクワクとした気持ちで他者の考えを受け入れたり、概念を再構築したりする時間にしていきたいです。今後もしそんな授業を少しでも多く子どもたちに届けられるよう、努めていきます。

(みやもと まさゆき)

道徳授業私の実践

愛知県豊橋市立二川小学校
教諭
水流 卓哉

教材について

- 教材名 ブランコ乗りとピエロ
- 主題名 分かり合う心
- 内容項目 B 相互理解、寛容

○あらすじ 大王アレキスに演技を見てもらえるのは、限られた団員だけだと分かっているのに、自分の持ち時間を超えて演技を続けたブランコ乗りのサム。ピエロは、サムの自分勝手な振る舞いに腹を立ててもおかしくないのに、サムを責めることはしなかった。サムの渾身の演技を見て、サムのよさを認め、サムの行いを許す気持ちが生まれたのであった。

授業の実際

〔導入〕

導入時には、学級目標の一つに通じる、「意見が合わない人と関わるためにどうするか」と問い、子どもの発言をA〜Cに分類していった（板書写真参照）。そして「意見が合わない人と仲良くすることは不可能なのか」という問題意識をもったところで、「A〜

「一粒で二度おいしい」

学級集団の道徳性を高める授業展開

はじめに

「特別の教科 道徳」が、小学校では平成三十年、中学校では平成三十二年より全面实施され、数年が経った。文部科学省は、教科化の目的に、いじめの発生防止を主眼として挙げているが、授業の方法論を学ぶことや、授業時間数の確保に目が向きがちではないだろうか。

文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によると、小・中・高校・

特別支援学校におけるいじめの認知

（発生）件数は、年々増加傾向にあり、歯止めがかからない。では、道徳教育を通してこうした問題とどのように向き合っていくべきか。いじめに立ち向かうためには、いじめられている子どもを孤立させず、いじめは許さないという確固たる信念を、子どもと大人が共有することが必要である。

しかし、「いじめはやめましょう」「友達とぶつかっても我慢しましょう」などと、子どもたちの行動を制限することに終始した道徳授業に陥らないよ

うにしたい。道徳教育では、起こって

しまったいじめとどのように向き合うかという、対症療法的な考えを議論するのはなく、自ら体得する人間としての在り方について考えたい。

子どもたちと共に、どのような人間観をもてばいじめのない世界を創れるかを考え、自分たちにもそれができるといふ手応えと理想を抱ける前向きな意識を育むことが大切である。そして、子どもたち自身が、いじめが起こらない学級集団づくりをしていく当事者であるという意識をもてるようにしたい。

C以外の新しいDを見つけよう」と、考える視点をもたせてから、範読にすぎた。

【展開】

範読後には「最初は、仲の悪いサムとピエロだったけど、最後は仲良しになった」「どちらも目立ちたいって思っていたけど、最後はお互い認め合った」と、サムとピエロの関係性の変容に目を向けた発言が多く見られた。そこで、「二人は本当に仲良くなったの？ Bの意見を合わせているだけじゃないの」と導入時の子どもたちの意識と比較できるように問い返しを行った。すると、「最初はライバルなんだけど、最後にはそれを超えた何かになっていた」「『自分が目立ちたい』から、ただの『みんなが目立ちたい』に変わった」「ピエロもサムのことを認めたから、ライバルからよいライバルになった」と、見方や考え方を变えることで見える世界が変わることに気付き始めた。さらに一面的な見方から、多面的・多角的な見方に変えるよさに気付くことができるよう、「Aの『関わらない』という方法もあったんじゃないかな。自分の目立つ時間がサムの

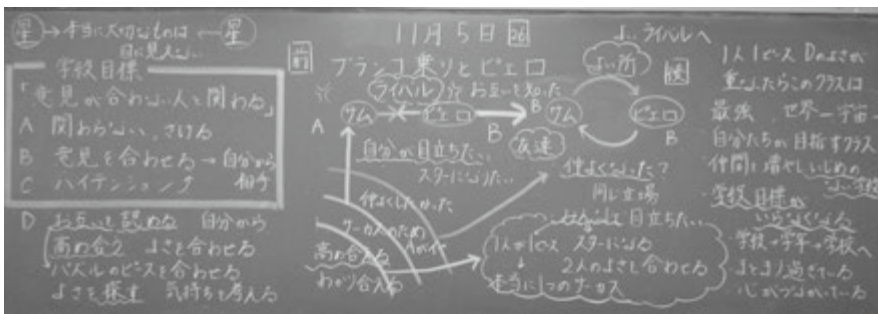
せいで半分になっちゃうけど、いいのかな」と批判的思考から問い返した。すると、「一人のスターより、二人のスターの力が合わさって、もっと大きな大スターになれると思う。そんなサカスは、お客さんも自分たちも満足できる」「一人一人がパズルのピース。みんなのよさが集まって本場に一つのサーカスになれる」と、意見が合わない人であっても見方を変えることで得られるよさを実感したところで、話し合いを終えた。

【終末】

議論が深まったところを見計らって「ここまでの話し合いで見つけたDは何ですか」と、導入時と関わる発問をした。「お互いに見方を変えて歩み寄る心が大切」「難しいかもしれないけど、よいところのない人なんていないからそこを見ようとすることが大事」とねらいに迫る姿が見られた。

中には「パズルみたいに一人がピース重ねようとする温かい心をもつこと」と、展開時の話し合いを生かしたユーモア溢れる発言もあった。そこで最後に「一人一人がよさのピースだとしたら、みんなで見つけたDのよさの

ピースを重ね合わせたらこの学級はどうなりそうですか」と、個の学びから集団の学びへと視点を変えた。子どもたちからは「ピースが重なる」と別の意見が出てきて、お互いに歩み寄ろうとするからもしっかり成長できる」「そんなクラスならいじめのないみんなが輝け



本時の板書

おわりに

るクラスになる」とよさを共有して、振り返りの時間とした。



児童の振り返り

右は、授業後に書かれた道徳ノートの記述である。本実践を通して、自らの納得解として明るく前向きな人間観、集団としての在り方を見据える学級観、さらには人間愛に溢れた価値観を体得する児童の姿に迫れた。わずか一時間の授業であっても、展開次第では、一粒で二度だけでなく、三度、四度と多様な角度からの学びを生み出せる。そして、このような学びの継続が、いじめを生まない学級集団の創造につながるっていくのではないだろうか。

(つる たくや)

SDGs× 道徳

連載 第9回

「SDGs×道徳」では、これまで4校の授業実践を紹介しました。今回は、各校の取り組みを総括し、学校現場における「SDGs×道徳」の実践の可能性について、課題と共に考えます。

●各校の実践

奈良市立都祁小学校【すてきいっぱい都祁の郷：都祁の宝物で世界の宝物を】（道徳ジャーナル109号）

川や水源地を校区の宝物と捉えて水源地を訪れ、JICALワンダの協力のもとで世界の水事情を学んだ。都祁の宝物である水と、地域の特産品である茶葉を組み合わせて作った「グリーンティー」を参観日に保護者に販売し、ルワンダの井戸造りのためにその売り上げを寄附した。学習のまとめとして、鹿児島県屋久島市立八幡小学校と共に、水問題について考える「水サミット」を開催した。

実践の振り返り

都祁小学校では、管理職の先生とカリキュラム・マネジメントチーム、そして現場の先生が連携できているため、全校（ホールスクール）での取り組みが実現できています。カリキュラム・マネジメントチームが管理職の先生と一緒に6学年の指導を計画し、教師間の連携を促す体制が整っています。失敗してもよいことを前提にしている、経験の浅い先生が困難に直面しても、支えていくことができます。



SDGs × 道徳の今後

～SDGs実践を振り返って～

一般社団法人グローバル教育推進プロジェクト（GiFT）理事
木村大輔

福島県只見町立只見中学校【新聞紙レジ袋で地域を一つに】（道徳ジャーナル110号）

海辺のゴミ拾いをした経験から、地球環境についての探究心に火がつき、生徒が中心となって新聞紙レジ袋を作成し、プラスチックゴミを削減する取り組みを行った。中学生に刺激されて環境活動に関心を持つ地域の大人たちが増え、町民が協力して新聞紙レジ袋の作成に取り組んだ結果、町内の10店舗で使用されるまでになった。

実践の振り返り

只見中学校では、海洋教育を軸に、小・中学校で学習指導の目標（学習観）をしっかりと連携させています。海辺のゴミを拾う活動から「河川の上流地域で生活する自分たちが気をつけることが、海の環境をよくすることにつながる」と考え、地域の河川から世界の海へというグローバルな視点に発展しました。学校の中で学習を完結させず、地域やコンビニ店舗とつながり、課題解決を地域との連携で考えています。



北海道江別市立江別第二小学校【動物園のゾウを通して自然愛護を考える】（道徳ジャーナル111号）

小中連携のカリキュラムづくりを進める中で、SDGsを関連させた汎用性の高い道徳科の授業を考えた。低学年では発達段階を考慮して、SDGsを掲げずに、その理念を学ぶことを目的とした。ミャンマーから日本の動物園にやって来たアジアゾウを題材に、ミャンマーで暮らすゾウ使いの少年の語りを通して、ゾウと人との共生から自然愛護を考える授業を行った。

実践の振り返り

江別第二小学校では、9年間の子どもの成長を捉えた上で、各ステージで生きる資質・能力の育成を意識した学習をデザインしています。課題について自分事として捉える仕掛けが多く用意されているので、どんどん視野を広げることができます。命について考え直すことで、SDGsの「平和で持続可能な社会」の実現に向け、変容を主軸に置いた「主体的・対話的で深い学び」につながっています。



広島市立二葉中学校【自分たちの力で状況を変えていく意識を持ち、行動に移すことの大切さについて考える】 (道徳ジャーナル112号)

新型コロナウイルスに対するネガティブな気持ちが膨らむ中、それらがSDGsに関連していることに気付かせるため、英語と道徳を組み込んだ単元を計画した。英語の授業ではSDGsについて学習し、道徳では富士山の環境問題からSDGs達成のために自分たちにできることを考えた。

実践の振り返り

広島市立二葉中学校では、世界で起きていることを自分事にする学びを、身近でイメージしやすい新型コロナウイルスというテーマで行いました。

SDGsで英語と道徳をつなげた教科横断型の学習は、それぞれの教科特性を生かした取り組みとして、すべての教科担当の先生に参考になる実践です。



● 従来の学校活動や行事の中にSDGsは含まれている

各校の取り組みを見ると、SDGsの課題について従来から何らかの働きかけをしている先生の存在が、大きな原動力になっています。全国的に見れば先進的であるといえますが、その内容にはどの学校でも取り入れられる部分があります。それぞれの地域性や環境、状況などを基に、実践のヒントとして活用してほしいと思います。

SDGsの実践は、既存の指導内容にさらに加えるものと思われがちです。しかし、従来の学校活動や行事の目的には、必ずSDGsが目指す世界観や理念が含まれているはず。まずはその共通点を探るとよいでしょう。

現在はSDGsを「知る」ことが中心になっているようですが、そこから学びを始めて、ゴール達成のために自分はどうか行動すればよいかを意思決定するという過程を目指したいものです。指導者が子どもに課題を提示して考えさせるという受動的なものではなく、子どもが主体的に考えて課題を見つけ、行動につなげていくまでをセットとして考えたいものです。

● 広がる道徳科の可能性

学習指導要領では、育成すべき資質・能力を三つの柱（「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」）として掲げていますが、今までは先の2つに偏っていました。3つ目の「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」を授業で養うため、課題について考え、調べ、学んで、自分の意見を出し合える場を設けるには、道徳科は最適だと思います。自分の意見を自由に、安心して発言できるのは道徳科の特長です。

また、あるテーマについて、道徳科で関係する題材を扱い、自分ならどうするかという軸を形成し、他教科や探究学習につなげることができます。ここで紹介した実践を参考に、学校の状況に合わせた学びをデザインしてほしいと思います。

● SDGsの本質に気付くための学び

これまで紹介した実践は、SDGsのロゴや17のゴールを覚えることに重点をおいていません。私たちが社会の中でどう生きるのか、そのためにどういう人でありたいか、という考えを深める機会を大切にしています。初めからうまくいなくていい、子どもも先生も、共にチャレンジしてみる姿勢が、学びそのものになっています。

その中で、当事者の立場を想像し、自分に置き換えてみる、社会的感情や個人の価値観もきちんと扱っています。これらは、「自分事につなげる問い」であり、行動やモチベーションの源泉になります。

子どもの変容を促す教育をしていることが、各校の共通点です。誰も取り残さずに世界を変革していく。そのため自分が変容する。この基礎がどの学校もできています。

現在、学習の4本柱である「知ること^なを学ぶ」「為すことを学ぶ」「共に生きることを学ぶ」「人間として生きることを学ぶ」が改めて重要視されています。その中核に道徳教育があると思います。

(取材・文/岡本侑子)

*「SDGs×道徳」過去の記事は、Webページからご覧いただけます。
「学研 学校教育ネット」道徳ジャーナル
https://gakkokyoiku.gakken.co.jp/others/dotoku_journal/doutokuj/

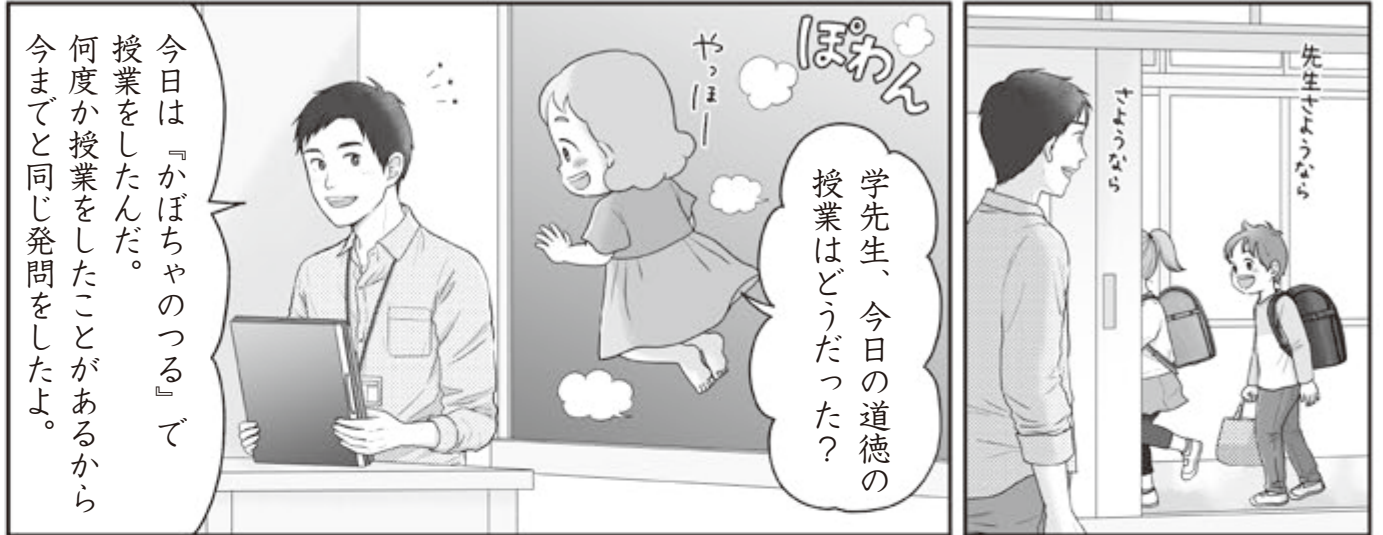
どうなるこれからの道徳授業

連載15回 小学校の授業づくり編

監修・法政大学兼任講師 廣瀬仁郎先生
マンガ・のはらあこ

とくちゃん

学先生



泣いているかぼちゃのことをどう思いますか？ (批判的な発問)	泣いているかぼちゃはどんな気持ちでしょう？ (共感的な発問)
自分がかぼちゃだったらどんな気持ちになりますか？ (投影的な発問)	かぼちゃが痛い思いをしてしまったのはどうしてでしょう？ (分析的な発問)

中心発問の場面では目的によっていろいろな発問の仕方があるね。

学先生の発問を分類するなら「共感的な発問」かな。

どんなことに気をつけてつるを伸ばせば痛い思いをせずにすんだのでしょうか？

かぼちゃはこれからどんなことを大切にすればよいでしょう？

すいかはどうして注意したのでしょうか？

注意した犬はどんな気持ちだったでしょう？

補助発問で、かぼちゃの気持ちばかりでなく、ほかの登場人物の気持ちを考えたり過去や未来について考えたりしてもいいよ。

←
未来 ←
過去 →
→

こんなふうに視点を変えたり視野を広げたりすると、多面的・多角的に考えを深められるよ。

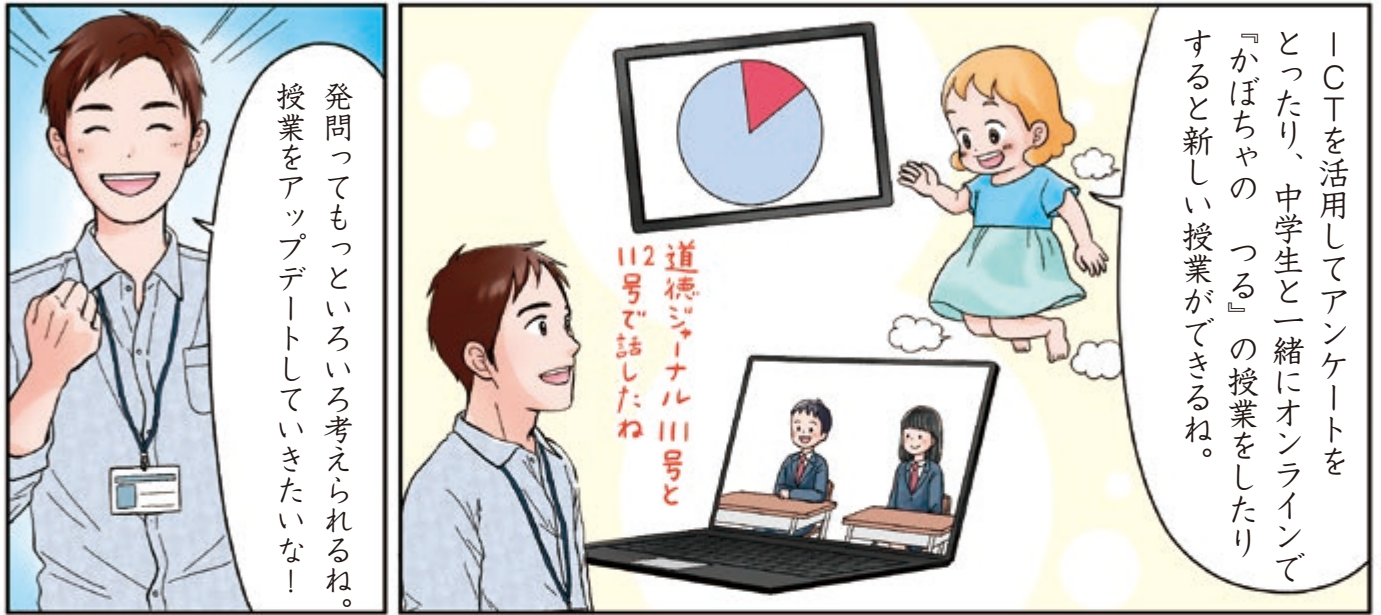
柔軟に発問を設定することが大切だね。

トラックが通らずつるが切れなかったらかぼちゃはどうなっていたでしょう？

注意されなかったら自由につるを伸ばしてよいでしょう？

もし○○だったら？という発問をすると、たくさん意見が出るかもしれないね。

そっそっ！



道徳ジャーナル113号 令和4年5月発行

発行所 株式会社学研教育みらい 発行人 甲原 洋／編集人 梯ともみ

本誌のお問い合わせ先…小中教育事業部 〒141-8416 東京都品川区西五反田2-11-8

内容については…TEL (03) 6431-1565 (編集) それ以外のことは…TEL (03) 6431-1151 (販売)

「学研 学校教育ネット」 <https://gakkokyoiku.gakken.co.jp> ●「道徳ジャーナル」のPDF版および電子版は、WEBページから。

9300008476

LINE 公式アカウントのお知らせ

@おんたま先生 学研教育みらい

道徳や体育・保健体育、特別支援教育、ICT教育などの最新情報の配信や、先生のお悩みを投稿できるサービスを提供しています。

友達
募集中！



◀QRコードをスキャンするとLINEの友達に追加されます。